

生物多様性センター Biodiversity Center of Japan

第4号

ニュースレター

2002. 1.

CONTENTS

JICA 生物多様性情報システム研修	1
自然環境保全基礎調査 今年度の進捗状況	2
自然環境保全基礎調査 データ提供方法の追加・拡充について	3
第4回自然系調査研究機関連絡会議開催!	4
川口順子環境大臣 生物多様性センターを視察	4
生物多様性国家戦略見直し作業について	5
報道発表から	5
センターの動き、来館者	6

JICA 生物多様性情報システム研修

生物多様性センターでは、今年度も国際協力事業団(JICA)の「生物多様性情報システム研修」の研修生を受け入れました。今年は9月24日から11月25日までの間、10ヶ国12名の研修生が各種実習を行いました。期間前半は富士山周辺や西表島での生物多様性情報収集実習に加えて各種講義の聴講等も行い、後半は当センターでのデータベース及びインターネット実習を中心に行いました。休日等の自由時間には日本の文化に触れるプログラムなどもあり、研修生達は研修時間外においても充実した時間を過ごしていました。当センター職員も外国の実情などを知る事ができ、貴重な交流を深める事ができた二ヶ月間でした。



自然環境保全基礎調査**今年度の進捗状況**

自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）の本年度の進捗状況を報告します。

○現在実施中の調査

1. 植生調査

第2回及び第3回基礎調査で全国の1/50,000植生図を整備し、第4回及び第5回基礎調査では改変部分を抽出して植生図を修正してきましたが、植生図のニーズは高まる一方、部分的な修正の繰り返して現実との乖離が大きくなってきたので、平成11年から10年計画で1/25,000で植生図の全国整備を始めました。平成13年度末までに植生原図763面（平成13年度は89面）、原図作成の前段階として植生情報が記載された判読情報資料図1310面（平成13年度は358面）整備がおわる予定です（いずれも2次メッシュ数、全国4,866メッシュ）。

2. 種の多様性調査（大・中型哺乳類）

20年前に実施された第2回基礎調査の結果と比較するために、当時と同じ手法で調査を実施中です。対象種はクマ、シカ、サルなど、人の生活圏との摩擦など地域個体群の保護管理が問題となっている大・中型哺乳類8種です。5 km メッシュレベルで全国からくまなく生息情報（目撃・捕獲・痕跡）を得ることを目標に、平成12年度にはアンケート調査を、平成13年度には聞き取り調査を行っており、平成14年度は補完調査を予定しています。

3. 種の多様性調査（鳥類）

第2回基礎調査の結果と比較するために同じ手法で調査を行っており、全国規模の繁殖状況調査としては20年ぶりです。全国の野鳥の会会員の協力を得、前回調査で設定された全国2,336コースについて平成10年より調査を実施しています。現地調査の概要は、5 km メッシュ毎に約3 km の調査コースを設定した上でロードサイド調査（1回）及び定点調査（2地点）を行い、観察された鳥類全てについて繁殖状況を5段階で評価するものです。今年度、山岳部・島嶼部などの調査をもって全コースの現地調査を終了し、来年度以降集計・解析を行う予定です。

4. 富士北麓地域生態系多様性地域調査（富士北麓地域）

溶岩流や溶岩洞穴などの火山性の環境のもとに特異な動植物相も呈している富士北麓地域において、主要な動植物の種目録を作成し、特徴的な環境において指標性を有する生物群の生育・生息状況からそれらの生態的特性を把握するために、山梨県に委託して今年度現地調査を実施しました。来年度も引き続き山梨県に委託して現地調査を実施し、調査結果を報告書にとりまとめる予定です。

（大蓮華山地域）

北アルプス北端の大蓮華山地域は、豊かな生態系が存在するといわれながらこれまで体系的な調査が行われていませんでした。平成12年度から2年計画で動植物、地形・地質について富山県に委託して調査を行っています。本年度は昨年度に引き続き現地調査を行い、報告書をまとめる予定です。

5. 湿地調査

今年度は、潮間帯から潮下帯の範囲に存在する湿地（干潟・藻場）について、調査手法（案）の検討を行っています。

6. 第33回ガンカモ科鳥類の生息調査（野生生物課）

日本で越冬するガンカモ科鳥類の個体数を把握するため、都道府県の協力を得て1月中旬に全国一斉調査を行っているものです。今年度は1月10日～20日の間に調査を行います。今回より調査結果の提出を電子ファイルで行えるよう、新たに様式を作成しました。

○現在とりまとめ中の調査

1. 海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査

平成9年度から開始した本調査においては、現在ウミガメ（現地調査年度：平成10,11年度）、アザラシ（同：平成11,12年度）、スナメリ（同：平成11,12年度）に関する報告書を取りまとめ中です。

2. 身近な生きもの調査

約26,000人の皆様にご協力いただき1年間にわたる身近な林調査が2001年8月末に終了いたしました。ありがとうございました。現在、いただいた標本の同定作業が終了し、集計、分析作業を行っています。

3. 種の多様性調査（全種）

専門家の方々にご協力いただき実施した全種調査（平成9年～11年）の中で、この度第5回動植物分布調査報告書（両生類・爬虫類）が発行されました。関係機関、都道府県、主要図書館などに送付しました。

4. 生態系総合モニタリング調査

第4回基礎調査の中で全国5箇所にモニタリング地域を設定し実施した調査結果を取りまとめ、近日中に報告書として発行する予定です。生態系を総合的にとらえる手法については、未だ試行錯誤の段階にとどまっており現在検討を重ねているところです。

自然環境保全基礎調査

データ提供方法の追加・拡充について



昭和48年より実施している自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）の成果については、生物多様性情報システム (<http://www.biodic.go.jp/J-IBIS>) により公開してきたところですが、①利用頻度の高い項目（植生メッシュ情報等）について全国分を一括して電子ファイル化するとともに、②従来は同等のデータを入手するために必要だった利用者登録を不要とし、一般の方に自由に利用できるようデータファイルのダウンロードページを開設しました。

なお、生物多様性情報システムダウンロードのページは、<http://www.biodic.go.jp/dload/> です。利用にあたっては注意事項、データの内容を示した説明書等を良くお読みの上使用してください。

現在利用可能な情報は以下のとおりです。（今後も利用者のニーズに応じ、順次ファイルを追加・拡充していく予定です）

【植生調査（メッシュデータ）】

第5回基礎調査までに整備された1/5万現存植生図をもとに、植生情報を標準地域メッシュ（約1

×1km）単位にデータ化したものです（第4回基礎調査及び第5回基礎調査成果を格納、レコード数：約36万）。

これまでは、生物多様性センターが提供する地図情報としての形でのみ利用可能でしたが、今後は、提供されるメッシュデータを利用者が独自に加工して、例えば以下のような作図を行うことが可能となります。

- 小縮尺の現存植生図、植生自然度図（メッシュ図）等の作成
- 凡例リストの活用により目的の植生を選択的に表示・作図

【湿地調査】

平成5年に実施した「湿地調査」対象湿地2196箇所の一覧です。

名称、所在地、タイプ、面積等の最小限の情報ですが、今後項目を追加する予定です。既に生物多様性情報システム中で稼働中の湿地分布図作成機能をあわせてご活用ください。（湿地分布図作成機能は http://www.biodic.go.jp/kiso/fnd_f.html）

第4回自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC) 開催!

自然環境、野生生物保護などを主な調査研究の対象とする機関が集まり、相互の連携による科学的情報に基づいた自然保護施策の推進を目的として平成10年に結成された自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC) は、平成13年12月10日 (月) ~11日 (火) に国立環境研究所 (つくば市) において次の内容で第4回会議を開催しました。今年度岩手県環境保健研究センターが新たに参加し、本会議の構成機関は、平成13年12月1日現在で14機関となりました。

なお、次回連絡会議 (来年度) は北海道環境科学研究センターで開催する予定です。

【12月10日 (月)】

■パネルディスカッション(公開、13:15~15:45) テーマ:「環境修復の現状と課題」

コーディネーター: 椿 宜高(国立環境研究所生物多様性研究プロジェクト上席研究官)

講演1 「兵庫県におけるコウノトリの野生復帰計画」

大迫義人(姫路工業大学自然・環境科学研究所助教授/
兵庫県立コウノトリの郷公園主任研究員)

講演2 「ギフチョウの生息地の保全について」

尾関雅章(長野県自然保護研究所技師)

講演3 「人工干潟 (海浜) の造成による沿岸生態系修復の現状と課題」

木村賢史(東京都環境科学研究所主任研究員)

講演4 「ため池から生物多様性の保全を考える」

高村典子(国立環境研究所生物多様性研究プロジェクト総合研究官)

総合討論



■調査研究・活動事例発表会第1部 (公開、16:00~18:00)

北海道における中型哺乳類の分布の解析: GISを用いた事例(車田利夫: 北海道環境科学研究センター)

渡島半島地域のヒグマを取り巻く問題と解決への取り組み(釣賀一二三: 北海道環境科学研究センター)

埼玉県動植物画像・文字データベースの構築(嶋田知英: 埼玉県環境科学国際センター)

石川県野生動物保護管理計画に基づくモニタリング調査(野崎英吉: 石川県白山自然保護センター)

山梨県における農林業への野生動物被害の実態と対策の現状

—特にニホンザル、ツキノワグマ、イノシシについて—(北原正彦: 山梨県環境科学研究所)

長野県上村におけるニホンジカと住民との関わり(浦山佳恵: 長野県自然保護研究所)

小笠原諸島で産卵するアオウミガメの現状(近藤鉄也: 日本ウミガメ協議会/小笠原海洋センター)

【12月11日 (火)】

■調査研究・活動事例発表会第2部(公開、9:30~10:00)

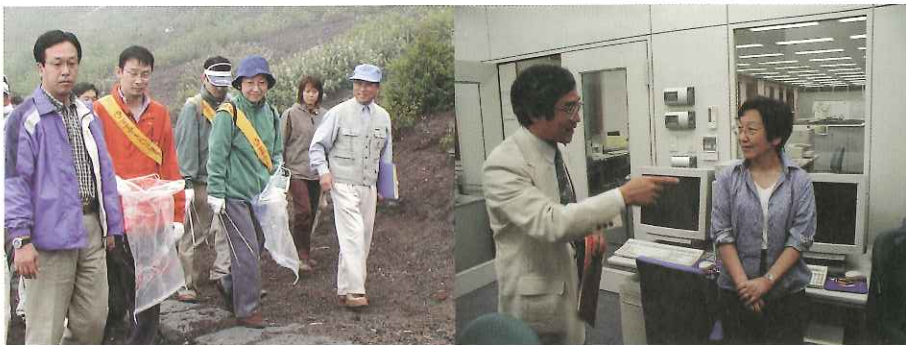
カワウ問題の方向性と河川環境の改善(成末雅恵: (財)日本野鳥の会研究センター)

生物多様性条約に基づくクリアリングハウスメカニズム構築について(鵜野沢茂: 生物多様性センター)

■自然系調査研究機関連絡会議(10:00~11:30)

川口順子環境大臣 生物多様性センターを視察

去る8月11日、川口順子環境大臣は、富士山クリーン作戦に参加ののち、生物多様性センターを視察しました。生物多様性センターでは笹岡センター長からセンターの取り組みについて説明を受け、施設の視察を行いました。



生物多様性国家戦略見直し作業について

環境省では今年度、生物多様性国家戦略の見直し作業に着手しました。

1993年我が国は生物多様性条約を締結し、同条約に基づき1995年10月31日全閣僚により構成される「地球環境保全関係閣僚会議」において現行の生物多様性国家戦略が策定されました。

国家戦略第4部第3節に毎年の点検の実施とともに5年後程度を目途として、国民各界各階層の意見を十分に聴取した上で見直しを行うこととされており、現在の見直し作業はこれに基づいたものです。3月下旬に新・国家戦略を決定するというスケジュールで作業を行っています(右表参照)。

生物多様性センターでは生物多様性国家戦略懇談会、中央環境審議会自然環境・野生生物合同部会及び生物多様性国家戦略小委員会について議事次第、資料、議事要旨をwebページに掲載しております。

(<http://www.biodic.go.jp/nbsap.html>)

見直しのスケジュール

2001年

10/17 自然環境・野生生物合同部会(第1回)

- ・ 国家戦略見直しに係る諮問
- ・ 生物多様性国家戦略小委員会の設置
- ・ 見直しの進め方

10/30-11/1 生物多様性国家戦略小委員会(第1回)

- ・ 生物多様性の現状認識、見直しの進め方、各省庁施策ヒアリング

11/13 生物多様性国家戦略小委員会(第2回)

- ・ 生物多様性に関する課題、戦略見直しに係る論点

11/20 生物多様性国家戦略小委員会(第3回)

- ・ NGOヒアリング

12/10 生物多様性国家戦略小委員会(第4回)

- ・ 骨子案検討

2002年(予定)

1/28 生物多様性国家戦略小委員会(第5回)

- ・ 素案検討

2月上旬 生物多様性国家戦略小委員会(第6回)

- ・ 案検討

2月中旬～3月中旬 パブリックコメントの募集

3月中旬 自然環境・野生生物合同部会(第2回)

- ・ 案検討

3月下旬 自然環境・野生生物合同部会(第3回)

- ・ 答申

3月下旬 地球環境保全関係閣僚会議

- ・ 新・国家戦略決定

一報道発表から一

海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査(ウミガメ生息調査) 中間とりまとめについて(8月30日)

生物多様性センターでは、国内のウミガメの繁殖状況を把握し、沿岸域の自然環境保全のための基礎資料を得るために平成10、11年度に30都府県に委託して実施した本調査の中間とりまとめを行った。調査の結果、調査年度を含む過去5年間にウミガメの上陸が確認された砂浜は、アカウミガメで365箇所、アオウミガメで86箇所、タイマイで9箇所、種不明で93箇所あった(これらのうち産卵も確認された砂浜もあった)。

(<http://www.biodic.go.jp/kisha/pdf/8.30/kame.pdf> 参照)

インターネットによる「四季のいきもの前線調査」の開始について(8月30日)

紅葉の始まりなど身近な自然の四季の移り変わりについて、インターネットを通じて国民のみなさんから情報を提供してもらうことにより、全国の四季の動向を調べる「四季のいきもの前線調査」を9月1日より開始します。初回の調査テーマは、「もみじの紅葉」「ヒガンバナの開花」「虫(マツムシ、クツワムシ)の鳴き声」の3つ。国民参加により、全国の秋の変化を追いかけます。(参加するには、<http://www.sizenken.biodic.go.jp> から「四季のいきもの前線調査」を選択)

第6回自然環境保全基礎調査「巨樹・巨木林フォローアップ調査」について(10月4日)

生物多様性センターでは「巨樹・巨木林フォローアップ調査」の結果をとりまとめた。詳しくは生物多様性センターニュースレター第3号又は<http://www.biodic.go.jp/kisha/pdf/10.4/tree.pdf> 参照。

自然環境保全基礎調査データ提供方法の追加・拡充について(10月5日)

3ページ記事参照。

センターの動き 2001年7月～12月

- 7月24日 生物多様性情報システムに「維管束植物 RDB 種情報」を追加
- 8月9日 哺乳類Ⅱ分科会 (於：環境省)
- 11日 **環境大臣視察、富士山クリーン作戦**
- 13～20日 関西学院大学生ボランティア実習 (総合政策学部久野研究室)
- 19日 第3回生物多様性まつり「生物多様性ってな～に？ズックが教えます！」開催
- 24日 第6回生物多様性国家戦略懇談会 (於：東京)
- 30日 **「ウミガメ生息調査中間とりまとめ」記者発表**
- 9月1日 **インターネット自然研究所「四季のいきもの前線調査」開始**
- 4日 植生調査作業部会 (於：環境省)
- 21日 山梨大学工学部土木環境工学科との合同勉強会
- 24日 **JICA「生物多様性情報システム」研修開始 (～11月25日)**
- 28日 植生調査中国・四国ブロック調査会議 (於：岡山市) を皮切りに全国8ブロックで順次ブロック調査会議を開催
- 10月4日 **「巨樹巨木林フォローアップ調査」記者発表**
- 5日 **自然環境保全基礎調査データ提供方法の追加・拡充**
- 6日 **図書閲覧室10月の土日試験公開を開始**
- 9日 淡水魚類分科会・作業部会合同委員会 (於：鹿児島市)
- 13日 巨木を語ろう全国フォーラム (於：岩手県二戸市)
- 17日 中央環境審議会第1回自然環境・野生生物合同部会 (於：東京)
- 30日 中央環境審議会第1回生物多様性国家戦略小委員会 (於：経済産業省)
- ～11月1日 (於：経済産業省)
- 11月1日 ガンカモ科鳥類生息調査・調査方法等検討委員会 (於：環境省)
- 13日 中央環境審議会第2回生物多様性国家戦略小委員会 (於：東京)
- 18～19日 重要湿地(藻場)ワークショップ (於：宮城県志津川町)
- 20日 中央環境審議会第3回生物多様性国家戦略小委員会 (於：経済産業省)
- 26日 身近な生きもの分科会 (於：環境省)
- 12月10～11日 **第4回自然系調査研究機関連絡会議 (於：つくば・国立環境研究所)**
- 10日 中央環境審議会第4回生物多様性国家戦略小委員会 (於：環境省)

図書閲覧室

土日試験公開について

5～10月は土日にも展示室を開館していますが、図書閲覧室は従来人員不足のため非公開でした。今年度は試験的に10月のみ公開し、来年度以降必要な体制整備について検討を始めました。

来館者 2001年8月～12月

- 8月29日 インドネシア自然環境情報センター ダダン氏 (JICA カウンターパート研修)
- 8月29日 山形県文化環境部環境保護課
- 9月11日 JICA アフリカ地域特設「野生生物保護管理」研修 (10ヶ国10名)
- 10月3日 JICA「自然環境管理」研修 (9ヶ国10名)
- 16日 インドネシア プキット・デブカル国立公園長 ワルデマル氏 (JICA「森林火災対策プログラム」カウンターパート研修)
- 19日 JICA「地球環境地図作成技術」研修 (5ヶ国5名)
- 24日 JICA「持続可能な森林経営の実践活動促進」研修 (9ヶ国10名)
- 31日 インドネシア 林業試験所長 スナリオ氏 (JICA カウンターパート研修)
- 11月5日 香港漁農自然護理署 郊野公園主任 陳勁東氏 他2名
- 12月4日 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
- 12月6日 JICA「生態系モニタリング」研修 (5ヶ国10名)

ほかにも大勢の方に、お越しいただきました。ありがとうございました。
また、「総合的な学習の時間」導入に伴い、生徒さんが訪れる機会が多くなりました。

編集後記：富士山がすそ野まで雪をかぶりとても大きく見えます。第2～3四半期は忙しくすぎニュースレターの内容には困りませんでした。本年もよろしく願っています。(ま)



発行：環境省自然環境局生物多様性センター
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田丸尾5597-1
電話：0555-72-6031 FAX：0555-72-6032
URL <http://www.biodic.go.jp/> e-mail newsman@biodic.go.jp

展示室 入館無料 開館時間：9:00～17:00
休館日：5～10月 祝日 (土・日と重なる場合は開館)
11～4月 土・日・祝日、12/28～1/4
図書閲覧室 開館時間：9:00～17:00
休館日：土・日・祝日、12/28～1/4